

Monthly Report

～三井住友信託の経済・市場情報～

Contents

● 経済振り返り

- ✓7月の市場動向まとめ
- ✓主な経済指標(国内)
- ✓経済振り返り(国内)
- ✓主な経済指標(海外)
- ✓経済振り返り(海外)
- ✓日本・米国・アジアのGDP成長率

● 市場振り返り

- ✓グローバル株式
- ✓グローバル債券
- ✓為替

● 経済・市場見通し

- ✓内外経済
- ✓国内資産・海外資産・為替

● ご参考

- ✓市場環境の推移

2017年8月作成

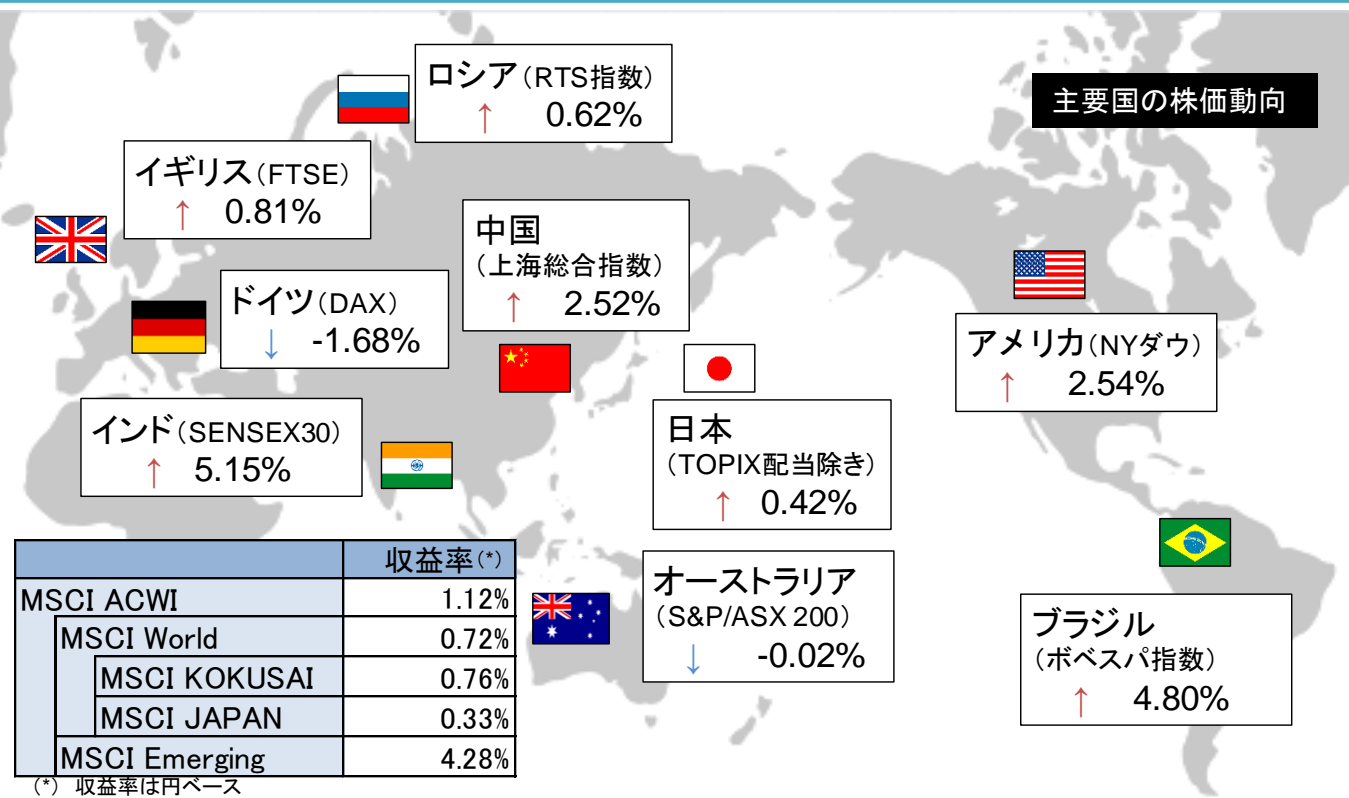
SuMi TRUST

● 経済振り返り

- ✓7月の市場動向まとめ
 - ✓主な経済指標(国内)
 - ✓経済振り返り(国内)
 - ✓主な経済指標(海外)
 - ✓経済振り返り(海外)
 - ✓日本・米国・アジアのGDP成長率
-

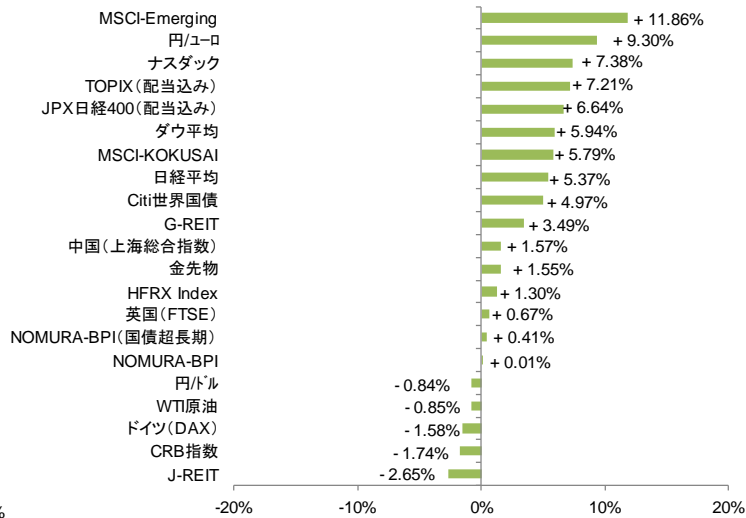
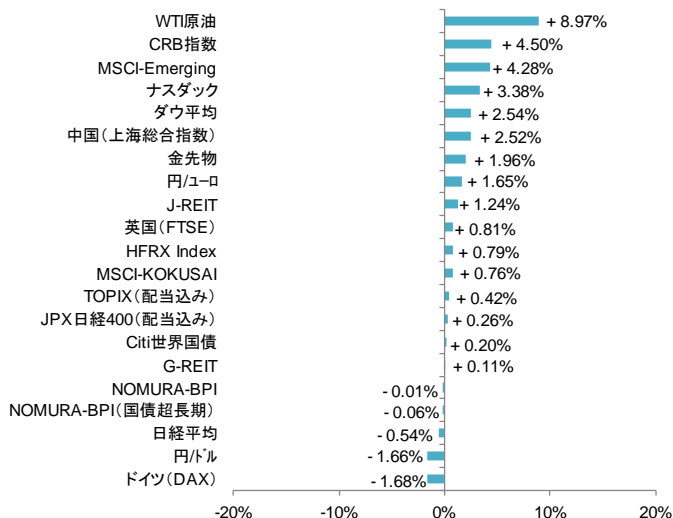
7月の市場動向まとめ

7月は、企業決算発表が本格化するなか、業績拡大への期待から米国株式が堅調に推移しました。一方、自動車メーカーの技術談合が報道されたドイツ株式(DAX)は、下落しました。



月次収益率

年度収益率



(注) J-REIT: 東証REIT指数(配当込み)、G-REIT: S&P先進国REIT指数(日本除き、円ベース)

(出所) Bloomberg

主な経済指標(国内)

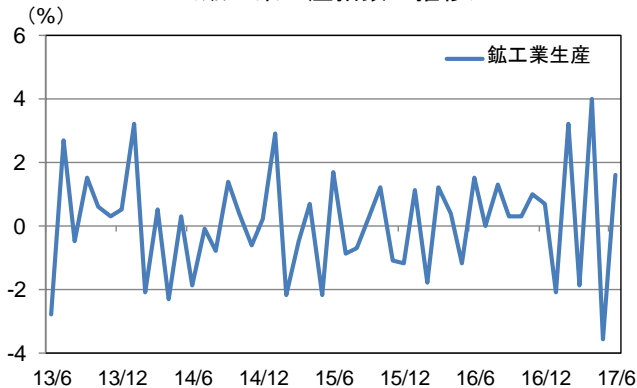
	経済指標	実績	前回
7月3日	6月 日経日本製造業PMI	52.4	52.4
7月3日	6月 自動車販売台数(前年比)	9.7%	6.1%
7月3日	6月 消費者態度指数	43.3	43.6
7月4日	6月 マネ列ヘース(前年比)	17.0%	19.4%
7月7日	6月 外貨準備高	1兆2,498億ドル	1兆2,519億ドル
7月10日	5月 機械受注(前月比)	-3.6%	-3.1%
7月10日	5月 機械受注(前年比)	0.6%	2.7%
7月10日	5月 国際収支:経常収支	1兆6,539億円	1兆9,519億円
7月10日	5月 貿易収支(国際収支ヘース)	-1,151億円	5,536億円
7月10日	6月 銀行貸出動向(含信金前年比)	3.30%	3.20%
7月10日	6月 景気ウォッチャー調査 現状判断(季調済)	50.0	48.6
7月10日	6月 景気ウォッチャー調査 先行き判断(季調済)	50.5	49.6
7月11日	6月 マネーストックM2(前年比)	3.9%	3.8%
7月11日	6月 マネーストックM3(前年比)	3.3%	3.2%
7月11日	6月 工作機械受注(前年比)	31.1%	24.5%
7月12日	5月 第3次産業活動指数(前月比)	-0.1%	1.4%
7月13日	6月 東京ワイルド空室率	3.3%	3.4%
7月14日	5月 鉱工業生産(前月比)	-3.6%	-3.3%
7月14日	5月 鉱工業生産(前年比)	6.5%	6.8%
7月14日	5月 設備稼働率(前月比)	-4.1%	4.3%
7月18日	6月 首都圏マンション発売(前年比)	-25.1%	-13.3%
7月19日	6月 工作機械受注(前年比)	31.1%	31.1%
7月20日	6月 コンビニストア売上高(前年比)	-0.1%	1.0%
7月21日	6月 全国百貨店売上高(前年比)	1.4%	0.0%
7月21日	6月 東京地区百貨店売上高(前年比)	1.1%	-1.1%
7月28日	6月 失業率	2.8%	3.1%
7月28日	6月 有効求人倍率	1.51倍	1.49倍
7月28日	6月 全国CPI(前年比)	0.4%	0.4%
7月28日	6月 全国CPI(除生鮮/前年比)	0.4%	0.4%
7月28日	7月 東京CPI(除生鮮/前年比)	0.2%	0.0%
7月28日	7月 東京CPI(除生鮮E補/前年比)	-0.1%	-0.2%
7月28日	6月 小売売上高(前月比)	0.2%	-1.5%
7月28日	6月 小売業販売額(前年比)	2.1%	2.1%
7月31日	6月 鉱工業生産(前月比)	1.6%	-3.6%
7月31日	6月 鉱工業生産(前年比)	4.9%	6.5%
7月31日	6月 貸出先別貸出金 法人(前年比)	4.1%	3.9%
7月31日	6月 自動車生産台数(前年比)	6.9%	5.5%
7月31日	6月 住宅着工件数(前年比)	1.7%	-0.3%
7月31日	6月 建設工事受注(前年比)	2.3%	-0.5%

(出所) Bloomberg

経済振り返り(国内)

鉱工業生産指数(6月):
前月比+1.6%

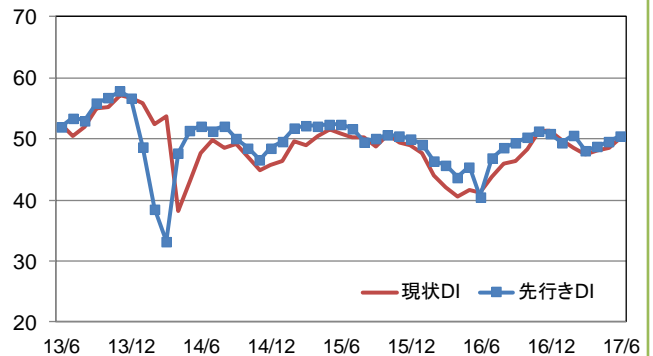
< 鉱工業生産指数の推移 >



6月の鉱工業生産指数は、前月比+1.6%となり、2か月ぶりに前月を上回りました。5月の大型連休で生産を減らした自動車など輸送機械工業が6月に入って生産水準を戻し、全体のけん引役となりました。経済産業省は、生産の基調判断を「持ち直しの動き」に据え置きました。

景気ウォッチャー調査(6月):
現状判断DI:50.0 先行き判断DI:50.5

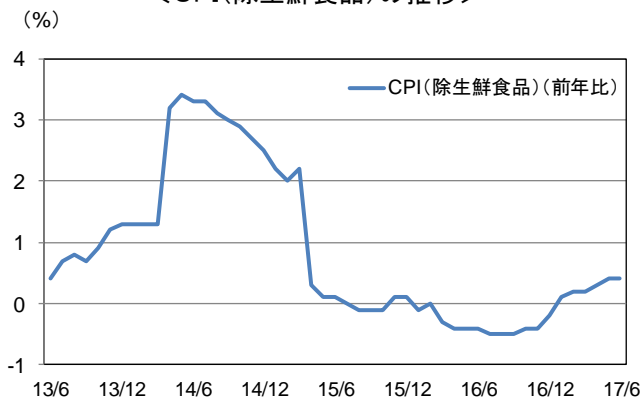
< 現状DI・先行きDIの推移 >



6月の景気ウォッチャー調査(季節調整値)は、現状判断DIは前月比+1.4ポイントの50.0となり、好不況の分かれ目となる「50」を半年ぶりに回復し、3か月連続の改善となりました。先行き判断DIは前月比+0.9ポイントの50.5となりました。

CPI(消費者物価指数、除生鮮食品、6月):
前年比+0.4%

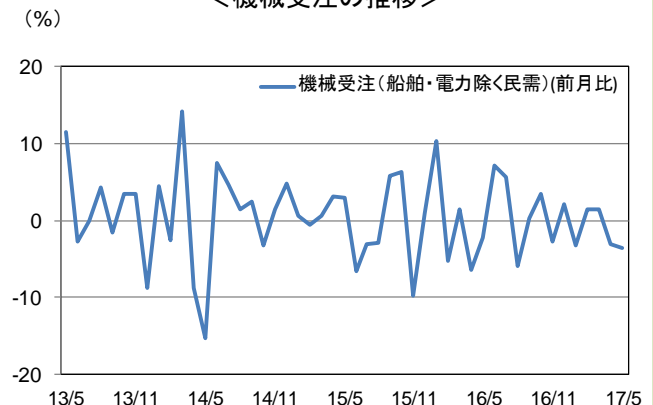
< CPI(除生鮮食品)の推移 >



6月の消費者物価指数(除生鮮食品 コアCPI)は、前年比+0.4%となり、6か月連続のプラスとなりました。電気代などエネルギー価格が上昇した一方、携帯電話機が大幅に下落し、5月の同+0.4%と比べプラス幅は横ばいとなりました。

機械受注(船舶・電力除く民需、5月):
前月比▲3.6%

< 機械受注の推移 >



5月の機械受注(国内設備投資の先行指標)は、前月比▲3.6%となりました。うち製造業は+1.0%、非製造業は▲5.1%となりました。内閣府は、基調判断を「持ち直しの動きに足踏みが見られる」から「足踏みが見られる」に変更しました。

(出所) Bloomberg

主な経済指標(海外)

<米国>

	経済指標	実績	前回
7月3日	6月 ISM製造業景況指数	57.8	54.9
7月5日	5月 製造業受注指数	-0.8%	-0.3%
7月5日	5月 耐久財受注(前月比)	-0.8%	-0.1%
7月6日	6月 ADP雇用統計	15.8万人	23万人
7月6日	5月 貿易収支	-465億ドル	-476億ドル
7月6日	6月 マークイット米国コンポジットPMI	53.0	53.9
7月6日	6月 ISM非製造業景況指数(総合)	57.4	56.9
7月7日	6月 非農業部門雇用者数変化	22.2万人	15.2万人
7月7日	6月 失業率	4.4%	4.3%
7月11日	5月 卸売在庫(前月比)	0.4%	0.4%
7月13日	6月 PPI最終需要(前月比)	0.1%	0.0%
7月13日	6月 PPI最終需要(前年比)	2.0%	2.4%
7月14日	6月 消費者物価指数(前月比)	0.0%	-0.1%
7月14日	6月 CPI除食品・エネルギー(前月比)	0.1%	0.1%
7月14日	6月 ミシガン大学消費者マインド*	93.1	95.1
7月19日	6月 住宅着工件数(前月比)	8.3%	-2.8%
7月19日	6月 住宅建設許可(前月比)	7.4%	-4.9%
7月24日	6月 マークイット米国コンポジットPMI	54.2	53.9
7月24日	6月 中古住宅販売件数(前月比)	-1.8%	1.1%
7月26日	6月 新築住宅販売件数(前月比)	0.8%	4.9%
7月27日	6月 耐久財受注(前月比)	6.5%	-0.1%
7月28日	4-6月期 GDP(年率/前期比)	2.6%	1.2%
7月28日	4-6月期 個人消費	2.8%	1.9%
7月28日	7月 ミシガン大学消費者マインド*	93.4	93.1
7月31日	6月 中古住宅販売仮契約(前月比)	1.5%	-0.7%

<ユーロ圏>

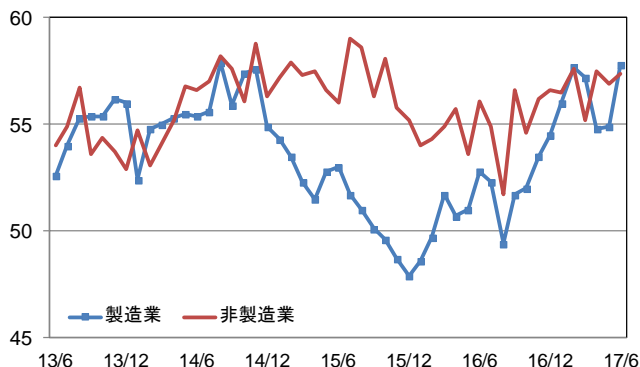
	経済指標	実績	前回
7月3日	6月 マークイットユーロ圏製造業PMI	57.4	57.4
7月3日	5月 失業率	9.3%	9.2%
7月4日	5月 PPI(前月比)	-0.4%	0.0%
7月5日	5月 小売売上高(前年比)	2.6%	2.6%
7月12日	5月 鉱工業生産(季調済/前月比)	1.3%	0.3%
7月17日	6月 消費者物価指数(前月比)	0.0%	-0.1%
7月17日	6月 CPIコア(前年比)	1.1%	1.1%
7月19日	5月 建設業生産高(前年比)	2.6%	3.3%
7月24日	7月 マークイットユーロ圏製造業PMI	56.8	57.4
7月28日	7月 景況感	111.2	111.1
7月31日	6月 失業率	9.1%	9.2%

(出所)Bloomberg

経済振り返り(海外)

ISM景況指数(6月):
製造業57.8 非製造業57.4

<ISM景況指数の推移>

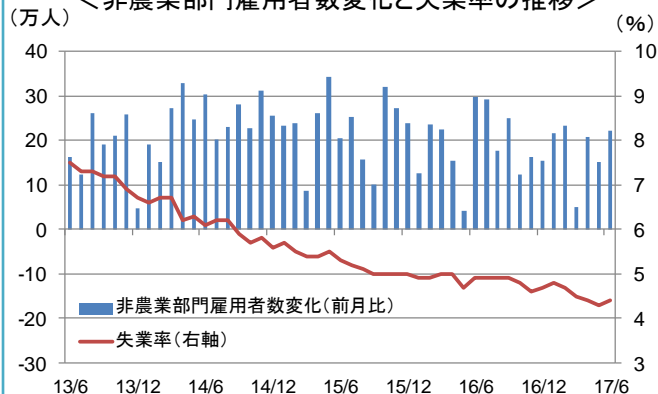


6月のISM製造業景況指数は57.8と、前月(54.9)から2.9ポイント上昇し、2014年8月以来2年10ヵ月ぶりの高水準となりました。
非製造業景況指数は57.4と、前月(56.9)から上昇しました。

米雇用統計(6月):

非農業部門雇用者数 前月比+22.2万人

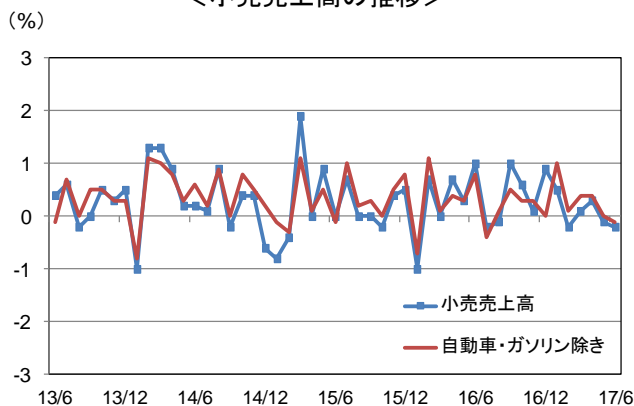
<非農業部門雇用者数変化と失業率の推移>



6月の非農業部門雇用者数は、前月比+22.2万人と、市場予想の+17.8万人を大きく上回り、過去2ヶ月分も上方修正されました。
また、失業率は4.4%となり、16年ぶり低水準だった5月の4.3%から僅かながら上昇しました。

米小売売上高(6月):
前月比▲0.2%

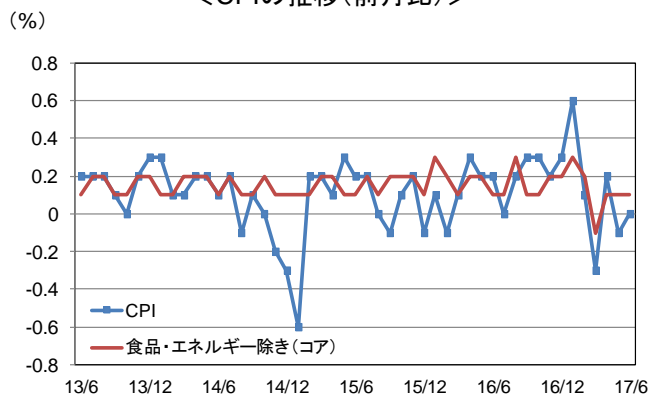
<小売売上高の推移>



6月の小売売上高は前月比▲0.2%となり、2ヵ月連続の減少となりました。内訳は、低迷が懸念された自動車・関連部品は前月比+0.1%となった一方、ガソリン給油所の売り上げが前月比▲1.3%となりました。なお、自動車・ガソリンを除く小売売上高は、前月比▲0.1%となりました。

CPI(米消費者物価指数、6月):
前月比±0.0%

<CPIの推移(前月比)>



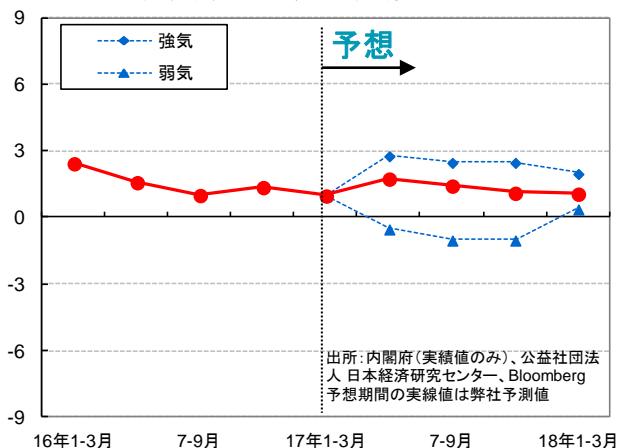
6月の消費者物価指数(CPI)は前月比横ばいとなりました。ガソリンのほか、携帯電話サービスが一段と値を下げ、物価全体を抑制しました。食品・エネルギーを除くコア指数は、前月比+0.1%となりました。

(出所) Bloomberg

日本・米国・アジアのGDP成長率

日本

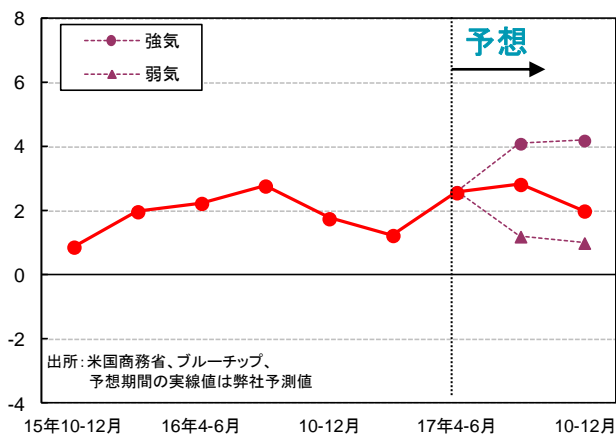
日本: 実質GDP成長率(前期比年率%)



日本の1-3月期の実質GDP成長率(2次速報値)は、前期比年率+1.0%と1次速報値の同+2.2%から下方修正となりました。主に、原油高から輸入が減少し在庫が圧縮されたことが下方要因となりました。

米国

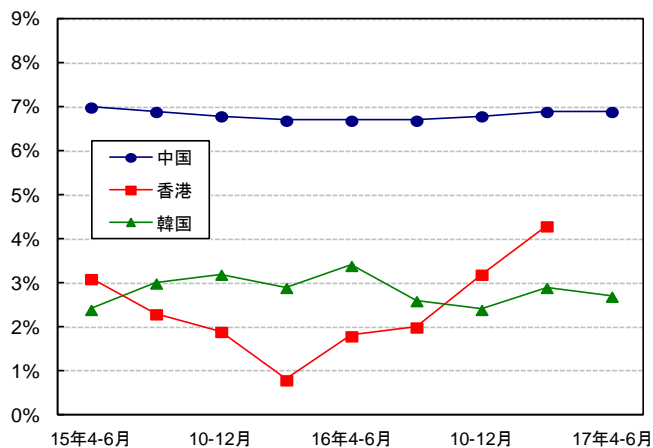
米国: 実質GDP成長率(前期比年率%)



米国の4-6月期実質GDP成長率(速報値)は、前期比年率+2.6%となり、1-3月期の同+1.2%よりも伸びが加速しました。主に、GDPの7割を占める個人消費の増加や企業の設備投資が寄与しました。

アジア

アジア: 実質GDP成長率(前年同期比%)



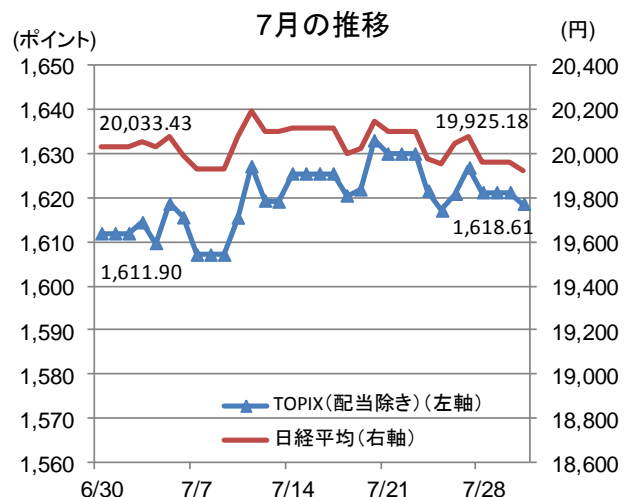
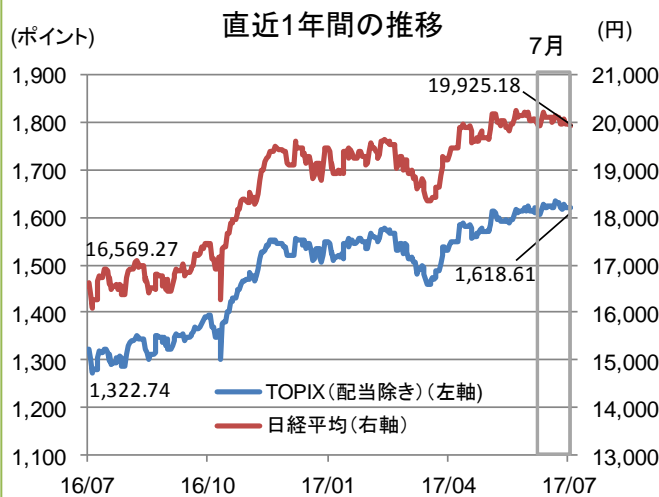
中国の4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+6.9%となりました。世界貿易や内需が中国の工業生産の回復を促進し、中国経済は1-3月期の勢いを維持しました。韓国の4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+2.7%となりました。

Note

● 市場振り返り

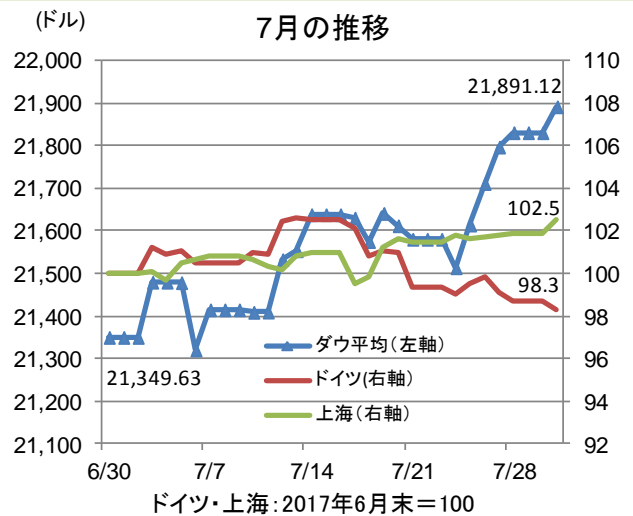
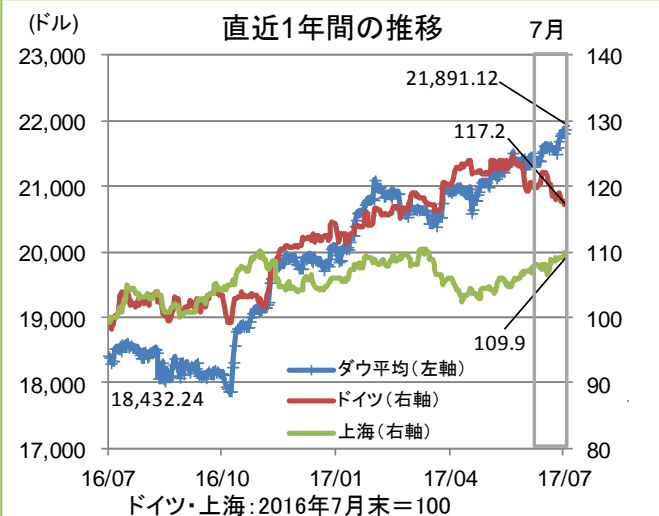
- ✓グローバル株式
 - ✓グローバル債券
 - ✓為替
-

国内株式



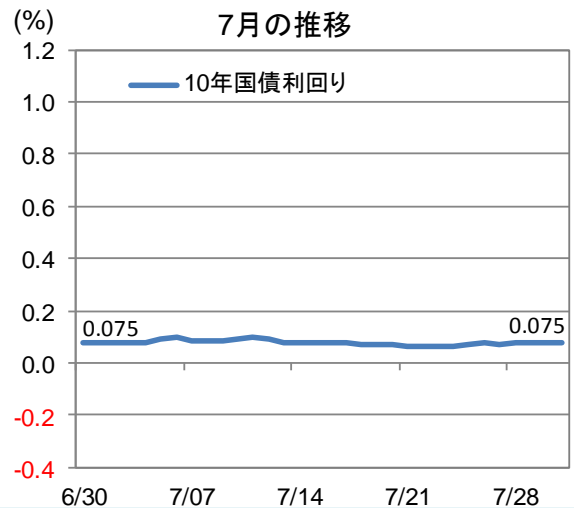
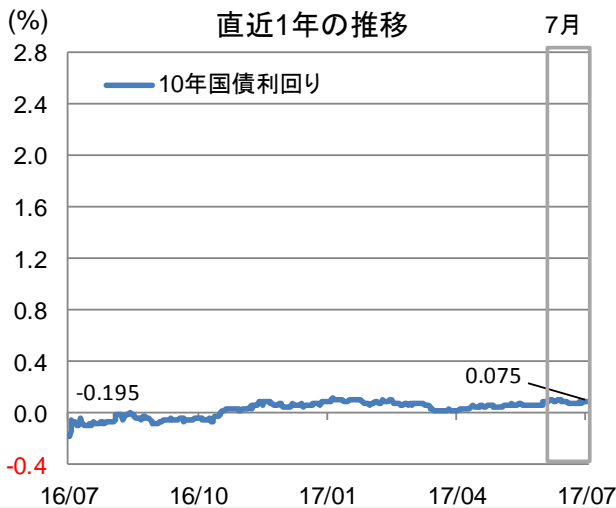
【7月の振り返り】 国内株式市場は、日経平均が前月比▲0.54%、TOPIX (配当除き) が同+0.42%となりました。期初は欧米株安や北朝鮮が弾道ミサイルを発射したことを背景に上値が重い展開で始まりました。その後、好調な米雇用統計の結果や欧米と日本の金融政策の方向性の違いから円安が進行したことにより上昇に転じ、堅調に推移しました。月末には、米政権運営の不透明感が増したことから円高・ドル安となったほか、安倍政権の内閣支持率の低下などを受けて下落し、日経平均は19,925.18円、TOPIX (配当除き) は1,618.61ポイントで終わりました。

外国株式



【7月の振り返り】 米国株式市場は、ダウ平均が前月比+2.54%となりました。7月は、主要経済指標の結果に左右される局面もあったものの、4-6月期の企業決算発表が本格化するなか、業績拡大への期待を背景に堅調に推移しました。欧州株式市場は、DAX (独) が前月比▲1.68%となりました。前月末からの金利上昇とそれに伴うユーロ高などが嫌気され、上値が重い展開で始まりました。その後、企業決算発表が本格化するなか、ドイツを中心とした自動車メーカーがカルテルを結んでいたとの報道を受けて自動車・部品セクターが大幅安となり、全体も下落基調で推移しました。中国株式市場は、上海総合指数が前月末比+2.52%となりました。良好な経済指標が好感され、上昇しました。

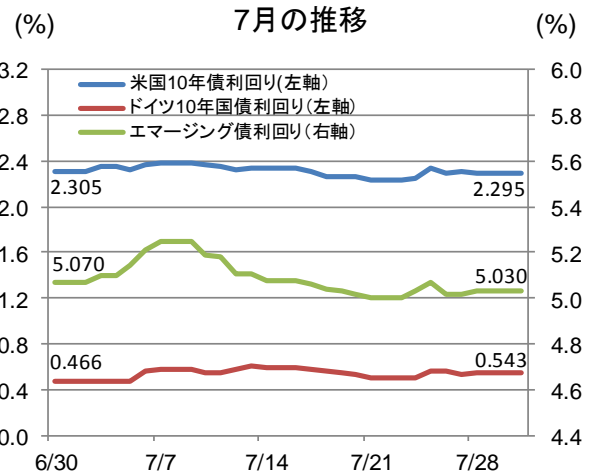
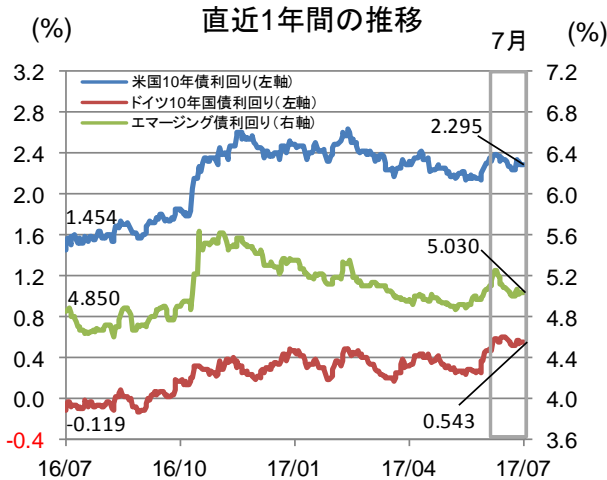
国内債券



【7月の振り返り】10年国債利回りは、ほぼ横ばいとなりました。前月末に欧州で金融緩和の縮小が示唆され、主要国の金利上昇に伴い日本国債利回りも上昇して始まりました。その後、日銀が臨時の国債買入れと定例の国債買入れ額の増額を同時に実施すると、利回りは低下に転じました。月末にかけては、材料がないなか、横ばい推移となり、10年国債利回りは0.075%で終わりました。

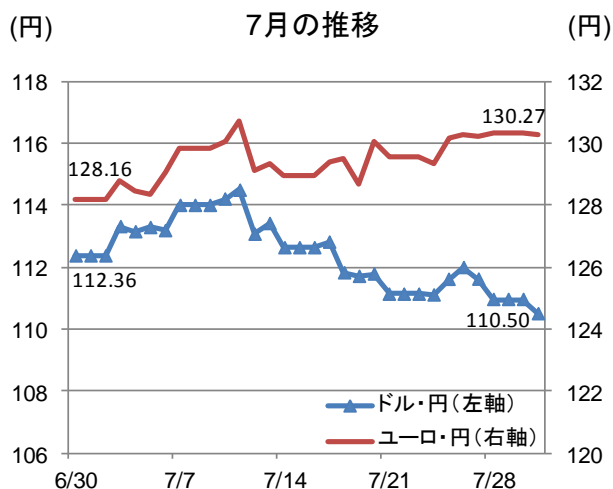
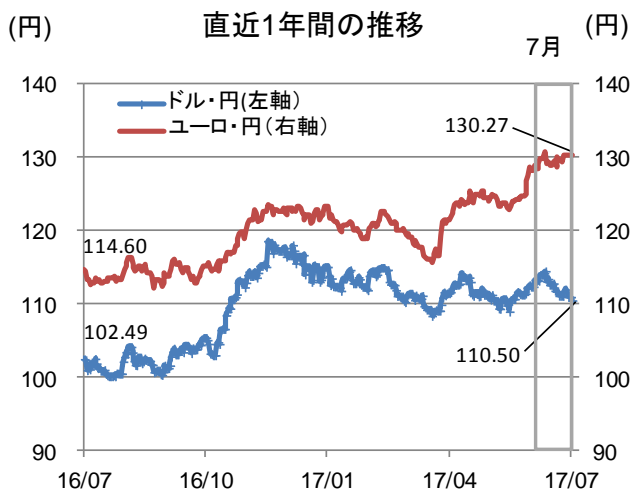
外国債券

(データ)エマーシング債: Bloomberg Barclays Emerging Markets Sovereign Index



【7月の振り返り】米国10年国債利回りは、2.305%から2.295%へ低下しました。欧米の金融政策縮小への思惑を背景に上昇して始まりましたが、イエレン議長が議会証言でインフレ見通しに慎重なスタンスを示すと、金利上昇が一服しました。月末のFOMCで「比較的早期」にバランスシートの縮小を開始することが予告されましたが、インフレ見通しに慎重との解釈が優勢となり、低下して終わりました。ドイツ10年国債利回りは、0.466%から0.543%へ上昇しました。フランス国債入札の低調な結果を受けて上昇しましたが、イエレン議長は議会証言でインフレ見通しに慎重なスタンスを示すと金利上昇が一服し、月末にかけて横ばい推移となりました。エマーシング債券市場は、概ね穏やかな投資環境により、投資家のエマーシング市場への選好姿勢は変わらず、金利は小幅に低下して終わりました。

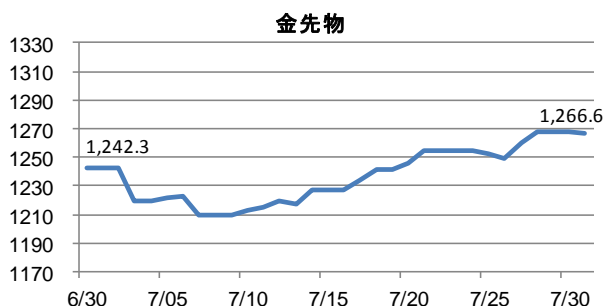
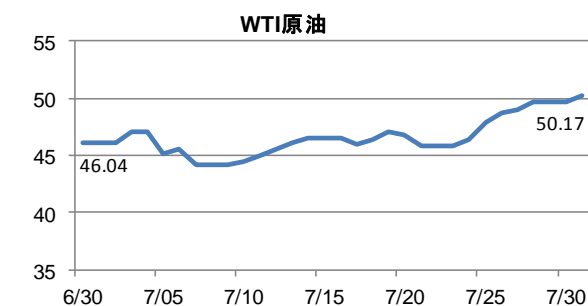
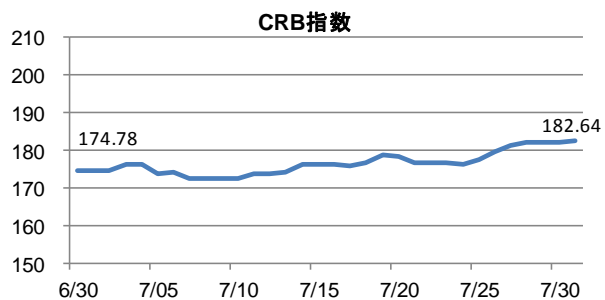
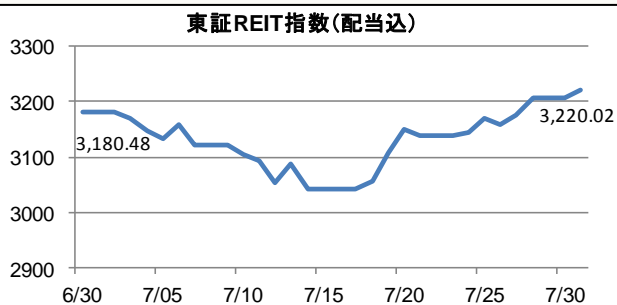
為替



【7月の振り返り】ドル・円は、前月末の112.36円から110.50円へ円高が進行しました。月初は、好調な米経済指標を背景にFRBが緩やかな利上げを続けるとの見方が広がったほか、日銀は長期金利を抑える姿勢を示し、日米金利差の拡大観測から円安・ドル高で推移しました。その後、米政権運営を巡る疑惑が再燃したほか、イエレン議長が議会証言でインフレ見通しに慎重なスタンスを示し、円高・ドル安が進行し、ドル・円は110.50円で終わりました。

ユーロ・円は、前月末の128.16円から130.27円へ円安が進行しました。6月下旬にドラギ総裁が金融引締めに関し、欧州の金融緩和縮小観測から日欧金利差が拡大するとの思惑から円安・ユーロ高で推移しました。その後、ECB理事会を控えた持ち高調整の円買い・ユーロ売りがあったものの、ECBの金融緩和縮小が今秋にも決まるとの見方から円安・ユーロ高で推移し、ユーロ・円は130.27円で終わりました。

【ご参考】不動産・商品



● 経済・市場見通し

- ✓ 内外経済
 - ✓ 国内資産・海外資産・為替
-

国内景気

4-6月期の成長率は、前期比年率+1.0%と低めの成長となった前期からの反動もあり、一時的に高めの伸びになる見込みですが、基調としては実質GDP伸び率にして年率1%台前半の緩やかな拡大を予想します。海外経済の好調を背景に引続き輸出の伸びが期待できるほか、人手不足対応の省力化投資が見込める設備投資や昨年決定した経済対策を背景に政府支出もプラス寄与が見込めます。個人消費については、家計の節約志向に大きな変化は望めないものの、基調としてはタイトな労働需給と雇用者報酬の増加を背景に、緩やかな回復を予想します。住宅投資は、金利低下の一服や価格高騰を受けた住宅着工の伸び悩みなどから、減速気味で推移すると予想します。

金融・財政政策

日銀は7月の金融政策決定会合において、現状の金融政策、すなわち短期金利(政策金利残高適用金利)を▲0.1%、長期金利(10年物国債金利)をゼロ%程度で推移するように調節するイールドカーブ・コントロール、保有残高増加額年間約80兆円の長期国債買い入れなど、いずれも変更無しとしました。また同時に公表した展望レポートにおいて、物価見通しを引き下げ、2%の物価安定目標達成時期の目処を、従来の18年度ごろから19年度ごろに先送りしました。当面、2%の物価目標の実現は目処が立たず、また足もとで日本経済を取り巻く諸環境にも特段の変容はないことから、次回の金融政策決定会合においても、現在の金融緩和スタンスが維持されると考えます。

米国景気

米国の4-6月期成長率は、暖冬などの一時的な下押し要因により1-3月期に減速した個人消費の反転から、前期比年率+2.6%と比較的高い成長となりました。引続き堅調な雇用環境を背景とした内需中心の成長が続くと予想していますが、住宅投資には陰りが見え始めるなど、政策金利引上げに敏感な投資関連の伸びの鈍化には注意が必要です。

また、財政政策の先行きは引続き非常に不透明で、大統領のみならず共和党上層部の党内での求心力が低下傾向にあるため、景気浮揚に関する諸政策が議会を通過しないと懸念が強まっているほか、オバマケア代替法案や債務上限引上げといった、財政・税制改革の前段とされる問題の消化にも懸念が生じており、議会停滞による景気にネガティブなリスクが意識される可能性があります。

金融・財政政策

FRBは7月のFOMCで、短期金利の指標であるフェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を1.00~1.25%に据え置きました。声明文では、バランスシートの縮小開始時期について、6月のFOMCでは「年内」としていたものを、今回は「比較的早期(relatively soon)」へと修正しました。イエレンFRB議長は来年2月までの任期中に道筋を付けたいとの考えから9月に縮小開始を決定し、その上で12月に追加利上げに踏み切ると予想しています。また、数ヶ月以内にイエレン議長は自身の進退に言及すると見られています。その際、市場では次期議長の政策方針への思惑とともに、市場のボラティリティが高まる可能性があります。

国内資産・海外資産・為替の見通し

国内債券

日本10年国債利回りは、ほぼ横這いの推移を予想します。昨年日本銀行が新たな枠組みとして導入した「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」により、10年金利は日銀が設定したターゲットであるゼロ%近辺を意識した推移が続いています。海外金利へのつれ高局面など、日銀は急な金利変動に対しては指し値オペなどにより抑制することが見込まれ、当面は現状水準近辺での推移が続くと予想します。

国内株式

国内株式は当面レンジ内の推移を予想します。米の利上げやバランスシート縮小観測がドル高円安に繋がるとの期待や日銀によるETF買い入れなどが下値を支えと考えると考えます。一方で、最高値圏にある米国株式のバリュエーション調整懸念や米トランプ政権のロシア関連疑惑、燦る北朝鮮地政学リスクなどが相場の重石になる見込みです。

米国債券

米国10年国債利回りは、目先インフレ指標に勢いを欠いた状況が続くと思われる中、2%前半でのレンジ相場が続くと予想しています。9月にも発表が予想されるFRBのバランスシート縮小は、需給を悪化させ、金利上昇圧力になり得るものの、予め示された縮小ペースは極めて緩やかなため、短期的に市場に与えるインパクトは限定されると見えています。

米国株式

米国株式は、テクノロジーなど一部業種に見られる過熱感の解消や最高値更新に対する懐疑的な一部の見方が相場の下押し材料となるものの、全体的に底堅い企業業績や投資家の楽観姿勢の継続が後押しし、緩やかな上昇を予想します。商品市場の回復や長期金利上昇が本格化すれば、物色が関連セクターに循環する形で、緩やかに株価を押し上げる展開も想定しています。

為替

<ドル/円>ボックス圏での推移を予想します。米利上げやバランスシート縮小観測などがドル高円安の材料になる一方、北朝鮮リスクや米政権のロシア関連疑惑、米インフレ指標の伸び悩みなどがドル安円高の材料になると考えます。

<ユーロ/円>やや強含みで推移すると予想します。日本では引続き金融緩和縮小の目処が立たない一方、景気の順調な拡大が続くユーロ圏では、早ければ秋口にも量的緩和縮小のアナウンスがあると考えます。当面は政治イベントなどのリスク要因も見当たらないことから、ユーロは比較的底堅く推移するものと予想します。

	2018年3月末予想値
新発10年国債利回り	0.06-0.10%
TOPIX	1,610-1,770
米国10年国債利回り	2.50-2.70%
米S&P	2,370-2,630
円/ドル相場	110-122円
円/ユーロ相場	124-138円

● ご参考

✓ 市場環境の推移

【ご参考】市場環境の推移

1. 主要資産

	17/03月	17/05月	17/06月	17/07月	前月比	前年度末比
国内債券						
NOMURA-BPI総合	378.49	379.55	378.57	378.55	- 0.01%	+ 0.01%
NOMURA-BPI(国債超長期)	260.58	262.81	261.79	261.65	- 0.06%	+ 0.41%
10年国債利回り(%)	0.07	0.04	0.08	0.08	-	-
国内株式						
TOPIX(配当込み)	2,176.87	2,257.27	2,324.06	2,333.91	+ 0.42%	+ 7.21%
JPX日経400(配当込み)	14,633.84	15,126.52	15,564.54	15,605.27	+ 0.26%	+ 6.64%
日経平均株価	18,909.26	19,650.57	20,033.43	19,925.18	- 0.54%	+ 5.37%
外国債券						
Citigroup世界国債(円ベース、日本除き)	427.83	439.67	448.21	449.11	+ 0.20%	+ 4.97%
米国10年国債利回り(%)	2.39	2.20	2.31	2.30	-	-
英国10年国債利回り(%)	1.14	1.05	1.26	1.23	-	-
ドイツ10年国債利回り(%)	0.33	0.30	0.47	0.54	-	-
外国株式						
MSCI-KOKUSAI(GROSS、円ベース)	2,682.40	2,761.77	2,816.22	2,837.67	+ 0.76%	+ 5.79%
ダウ平均(工業株30種)	20,663.22	21,008.65	21,349.63	21,891.12	+ 2.54%	+ 5.94%
ナスダック総合指数	5,911.74	6,198.52	6,140.42	6,348.12	+ 3.38%	+ 7.38%
英国(FTSE)	7,322.92	7,519.95	7,312.72	7,372.00	+ 0.81%	+ 0.67%
ドイツ(DAX)	12,312.87	12,615.06	12,325.12	12,118.25	- 1.68%	- 1.58%
中国(上海総合指数)	3,222.51	3,117.18	3,192.43	3,273.03	+ 2.52%	+ 1.57%
MSCI-Emerging(GROSS、円ベース)	1,873.29	1,956.75	2,009.52	2,095.55	+ 4.28%	+ 11.86%
為替						
円/ドル相場(ロンドン16時)	111.43	110.59	112.36	110.50	- 1.66%	- 0.84%
円/ユーロ相場(ロンドン16時)	119.18	124.36	128.16	130.27	+ 1.65%	+ 9.30%

2. その他資産

	17/03月	17/05月	17/06月	17/07月	前月比	前年度末比
商品						
CRB指数	185.88	179.77	174.78	182.64	+ 4.50%	- 1.74%
WTI原油	50.60	48.32	46.04	50.17	+ 8.97%	- 0.85%
金先物	1,247.30	1,272.00	1,242.30	1,266.60	+ 1.96%	+ 1.55%
ヘッジファンド						
HFRX Global Hedge Fund JPY Index [※]	105,952.04	106,411.12	106,482.51	107,328.10	+ 0.79%	+ 1.30%
不動産						
東証REIT指数(配当込)	3,307.66	3,271.22	3,180.48	3,220.02	+ 1.24%	- 2.65%
G-REIT指数	912.92	914.63	943.73	944.75	+ 0.11%	+ 3.49%

(出所) Bloomberg、10年国債利回りは日本相互証券のデータを使用

※情報提供会社のデータ更新のタイミングにより、基準日が月末値とならない場合があります。

本資料は、お客様の運用戦略や投資判断等の参考となる情報の提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。投資等に係る最終的な決定は、商品に関する詳細資料を参照の上、お客様ご自身のご判断で行なっていただきますようお願い申し上げます。

シミュレーションやバックテスト等のデータ、運用実績やリスク・リターン等による商品分類図を含めた本資料の内容は、将来の運用成果の向上を保証するものではありません。また、データの一部は、弊社が信頼できると判断した各種情報源から入手した情報等に基づくものですが、その情報の正確性・確実性について弊社が保証するものではありません。なお、本資料は、作成日において入手可能な情報等に基づいて作成したものであり、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます。

本資料に関わる一切の権利は、他社資料等の引用部分を除き三井住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。弊社又はその他の会社等の商標、標章、ロゴマーク、商号等に関する権利は、商標法、不正競争防止法、会社法及びその他の法律で保護されています。これらを各々の権利者の許諾を得ることなく無断で使用することはできません。

本資料の内容に関して疑問に思われる点、ご不明な点等がございましたら、弊社営業担当店部等にご照会下さいますようお願い申し上げます。

インデックス利用に係る留意事項

当社が提供する資料に記載された、下記インデックス提供会社のインデックスについて、下記の留意事項が適用されます。

インデックス提供会社	留意事項
Citigroup Index LLC	© 2016 Citigroup Index LLC. All rights reserved. Citigroup Index LLC (以下CitiIndex) またはその関連会社は、資料内の全てのファンドの Sponsor ではなく、資料内の全てのファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。CitiIndexが提供するインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、CitiIndexは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はCitiIndexに帰属します。
ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー	ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。パークレイズは、ライセンスに基づき使用されているパークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・パークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。
S&P Dow Jones Indices LLC	S&P Dow Jones Indices LLCが提供するインデックスはS&P Dow Jones Indices LLC(「SPDJ」)の商品であり、これを利用するライセンスが三井住友信託銀行に付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®はStandard & Poor's Financial Services LLC(「S&P」)の登録商標で、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC(「Dow Jones」)の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスが三井住友信託銀行にそれぞれ付与されています。資料内の金融商品は、SPDJ、Dow Jones、S&Pまたはそれぞれの関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これら関係者のいずれも、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、当インデックスの誤り、欠落、または中断に対して一切の責任も負いません。
MSCI	Copyright MSCI 2016. Unpublished. All Rights Reserved. 本情報は、閲覧者自身においてのみ使用することとし、いかなる形式においても複製または再配信してはなりません。またいかなる金融商品、プロダクト、または指数の作成に使用されてはなりません。本情報は、いかなる種類の投資決定をする(またはしない)のための投資助言や推奨をする目的はなく、またそのベースとはなりません。過去データ及び分析は、いかなる将来のパフォーマンス、分析、予測または予想について指示したり保証したりするものと取られるべきではありません。本情報は、「現状」のものとして提供され、またその利用者は、本情報を用いて行われるまたは可能になる投資判断などへのあらゆる使用リスクを負います。MSCI、その関連会社またはデータの編集、計算もしくは作成に係ったまたは関連した、いかなる第三者も、当データまたは同利用によって得られた結果に関連する明示的または暗示的保証や表明をしません。そしてMSCI、その関連会社、また上記の各第三者は、制限なく、独自性や正確性、完全性、適時性、非違反性、商品性または特定目的への適合性等の当データに関連する全ての保証を、ここに明示して拒否します。前述のいずれにも関わらず、いかなる場合においても、MSCI、その関連会社、またはデータの編集、計算もしくは作成に係ったまたは関連した、いかなる第三者も、直接損害、間接損害、特別損害、懲罰的損害、結果損害またはその他の損害(逸失利益を含む)について、このような損害の可能性について知らされているあるいは損害を予測していたとしても、責を負いません。
Hedge Fund Research, Inc	Source: Hedge Fund Research, Inc. www.hedgefundresearch.com, © 2016 Hedge Fund Research, Inc. All rights reserved. “The HFR Index Fund Weighted Composite Index”, “WWW.HEDGEFUNDRESEARCH.COM”, “HFR”, “HFR”はヘッジファンドリサーチ社(「HFR」)の商標とサービスマークであり、HFRからの許可の下で利用されています。HFRは三井住友信託銀行、その関連会社、金融商品、ファンドとは全く関係がなく、提携もしていません。HFRは三井住友信託銀行の金融商品、ファンドの組成もしくは設立に参画しておらず、HFRは三井住友信託銀行の金融商品とファンドを支持もしくは承認せず、三井住友信託銀行の金融商品とファンドに投資することを推奨していません。この資料はお客様限りです。(※HFRから提供された原文を三井住友信託銀行が邦訳したものであり、原文が必要な場合は当社までご連絡ください。)
FTSE International Limited	資料内の金融商品は、FTSE International Limited (以下「FTSE」)、London Stock Exchange Groupの会社(以下「LSEG」)、もしくはGlobal Wealth Allocation(以下「GWA」)は、いかなる形においても、スポンサー、保証、販売、または販売促進を行うものではありません。FTSE、LSEGおよびGWAは、「FTSE GWA Japan Index」、「FTSE GWA Developed ex Japan Index(FTSE GWA Kaigai Index)」(サブインデックスを含む以下インデックス)の使用から得た結果および/または上記インデックスが特定日の、特定時間において示す数値について、明示、暗示を問わず何ら保証や意見表明を行いません。インデックスは、FTSEが算出を行います。FTSE、LSEG、およびGWAは、インデックスの誤り(過失その他であっても)に対していかなる者に対しても責任を負うものではなく、ライセンス供与者は、いかなる者に対してもインデックスの誤りについて助言する義務を負うものでもありません。FTSE®は、LSEGの会社が所有する商標であり、ライセンス契約に基づき、FTSE International Limitedが使用します。 資料内の金融商品は、FTSE International Limited (以下「FTSE」)、London Stock Exchange Groupの会社(以下「LSEG」)、もしくはResearch Affiliates LLC (以下「RA」)は、いかなる形においても、スポンサー、保証、販売、または販売促進を行うものではありません。FTSE、LSEG、およびRAは、「FTSE RAFI Kaigai 1000 Index」(サブインデックスを含む。以下「インデックス」)の使用から得た結果および/または上記インデックスが特定日の、特定時間において示す数値について、明示、暗示を問わず何ら保証や意見表明を行いません。インデックスは、FTSEが算出を行います。FTSE、LSEG、およびRAは、インデックスの誤り(過失その他であっても)に対していかなる者に対しても責任を負うものではなく、ライセンス供与者は、いかなる者に対してもインデックスの誤りについて助言する義務を負うものでもありません。FTSE®は、LSEGの会社が所有する商標であり、ライセンス契約に基づき、FTSE International Limitedが使用します。 ラッセル・インデックスの関連サービスの所有権は、FTSE RUSSELLにあります。
東京証券取引所	「東証株価指数(TOPIX)」、「東証第二部株価指数」、「東証マザーズ株価指数」、「JASDAQ INDEX」、「東証REIT指数」(サブインデックスを含む)に係る知的財産権は、株式会社東京証券取引所(東証)に帰属します。なお、資料に記載された全ての商品は東証により提供、保証又は販売されるものではなく、資料に記載された全ての商品に係る損害等については東証は責任を負いません。
東京証券取引所 日本経済新聞社	①「JPX日経インデックス400」は、株式会社日本取引所グループ及び株式会社東京証券取引所(以下、総称して「JPXグループ」といいます。)並びに株式会社日本経済新聞社(以下、「日経」といいます。)によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、「JPXグループ」及び「日経」は、「JPX日経インデックス400」自体及び「JPX日経インデックス400」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。 ②「JPX日経インデックス400」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て「JPXグループ」及び「日経」に帰属しています。 ③ 本資料の金融商品は、年金信託業者等の責任のもとで運用されるものであり、「JPXグループ」及び「日経」は、その運用及び本資料の金融商品の取引に関して、一切の責任を負いません。 ④ 「JPXグループ」及び「日経」は、「JPX日経インデックス400」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延又は中断に関して、責任を負いません。 ⑤ 「JPXグループ」及び「日経」は、「JPX日経インデックス400」の構成銘柄、計算方法、その他「JPX日経インデックス400」の内容を要する権利及び公表を停止する権利を有しています。 「JPX 日経400」は「JPX日経インデックス400」(日本語正式名称)の略称であり、「JPX-Nikkei 400」は「JPX-Nikkei Index 400」(英語正式名称)の略称です。
野村證券	「NOMURA-BPI」、「NOMURA-BPI/Extended」、「NOMURA-BPI/Ladder」、「NOMURA J-TIPS Index」、「NOMURA-CMT Index」、「NOMURA Par Yield」(サブインデックスを含む)の知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。
野村證券 Frank Russell Company	「Russell/NOMURA 日本株インデックス」(サブインデックスを含む)の知的財産権は野村證券株式会社及びFrank Russell Companyに帰属します。なお、野村證券株式会社及びFrank Russell Companyは、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同指数を用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

*上記インデックス以外の資料中のインデックスの知的財産権は、各々のインデックス提供会社に帰属します。なお、インデックス提供会社は、同インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、同インデックスを用いて行われる当社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。 2016年12月改定